

第五回

静岡歴史教育研究会



「フクシマの時代」に世界史を考える！ 今を生きる私と世界史に橋をかけよう —私の世界史教育論—

報告者：小川 幸司(長野県総合教育センター専門主事)

コメント：松井 秀明(静岡県立磐田南高校)

戸部 健(静岡大学人文社会科学部)

今村 直樹(静岡大学人文社会科学部)

司 会：岩井 淳(静岡大学人文社会科学部)

日本の高校で学ぶ世界史は、外国の膨大な人名・国名を、ひたすら暗記させるものになっています。報告者の小川先生は、そのような世界史の学び方には、さしたる意義がないとし、学界で「世界史教育の改革」を提起してきました。2009年度の歴史学研究会大会・特設部会での報告「苦役への道は世界史教師の善意によってしきつめられている」や、著作『世界史との対話』全3巻(地歴社、2012年)は、そうした試みの一例です。

今回の報告では、高校・大学を通じて暗記主義ではない「世界史学」が成り立つとすれば、それはどのような“学び”であるべきなのかを考えます。その場合、教科としての世界史が入試や教科書のありようを含めてどのように設計されなければならないかという問題もあるでしょうし、個々の教員の授業がどのように組み立てられなければならないかという問題もあるでしょう。

かつてマルク・ブロックは、遺著『歴史のための弁明』の冒頭で、「ねえパパ、歴史が何の役に立つのか教えてよ」と書きました。ブロックは、ファシズムに抗するレジスタンスの時代に、その問いかけをしたのです。小川先生は、「フクシマの時代」であり「東アジアの緊張の時代」でもある現代に、意味ある世界史の学びとは何かを問題提起します。コメントは、高校の教壇から実際に歴史を教える松井先生、中国近代史を専門とする戸部先生、日本近世近代史を専門とする今村先生にお願いしました。皆様のご参加を心より期待しています。小川幸司先生の主要著作

『世界史との対話』上・中・下, 地歴社, 2012年.

日時：2013年8月7日(水) 14:00～18:00

会場：静岡大学共通教育A棟5F大会議室

http://www.shizuoka.ac.jp/access/map_shizuoka.html

入 場：無 料

主 催：静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費「歴史教育の地域的发展を目指した教材・教授資料の開発と高大連携の推進」による研究会

問合せ先：岩井 淳(静岡大学人文社会科学部)

YQS02036@nifty.com